

Parité wave

パリテウエーブ
from FUKUOKA

2024年6月 第9号

福岡から女性が政治を変える

議員を目指す女性増やそう

後押しする多彩な取り組み

選挙・政治活動のハラスメント根絶を

福岡県議会が研修会



もくじ

p.2～4 議員を目指す女性増やそう

～政治参画を後押し、多彩な取り組み～

p.5 選挙・政治活動のハラスメント根絶を

p.6 今後予定されている地方議会議員選挙日程

支援を広げる「一体感」

先日、福岡県久留米市議会議員・藤林詠子さんの後援会が開いた「2024春のつどい」に参加しました。つどいには約160人が参加。老若男女、障がい者など様々な方々が集い、藤林さんの議会報告だけでなく、クイズあり、歌やダンスありで大盛況でした。因らずもクイズにパリテウエーブに関する出題があり、PRする機会を得ました。

終了後、実行委員以外の出席者が多数残って椅子やテーブル、ごみなどを片付けていたのも印象的でした。これまで私が参加した政治家の集まりとは異なり、議員と支援者の一体感のようなものを感じました。

藤林市議は現在6期目。「パリテウエーブ第6号」(2022年2月発行)の編集長インタビューで、藤林さんは「支援の輪を広げるには人が人を連れてくる仕掛けが重要」と話していました。その仕掛けの一端を見たような気がしました。

Parité wave from FUKUOKA
(パリテウエーブ)
編集長 山川 美幸



パリテ (Parité) とは…

「同等、同一」を意味するフランス語。フランスで導入されている、議員立候補者を同数にする法律「パリテ法」から、「議員の男女同数を目指す波を福岡から起こす」という願いを込め、名付けました。

議員を目指す女性増やそう

政治参画を後押し、多彩な取り組み

地方議会議員を目指す女性を増やそうと、様々な団体が取り組みを活発化させています。2023年4月の統一地方選挙で女性の立候補者や当選者が増えたとはいえ、地方議会（都道府県議会、市区町村議会）における女性議員の割合は2割程度、福岡県は16%（23年4月末現在）と低迷しています。このような状況を変え、女性の政治参画を促す主な取り組みを紹介します。

意識を変える連続講座@北九州市

25年1月に市議選が予定されている北九州市では、NPOの代表や市議などで組織する「主権者教育を進める会」が23年10～12月に3回連続講座「女性の政治参画を進めるためのリーダー養成塾」を開きました。3回の講座を通じて、延べ50人が参加。第1回は上智大学法学部教授の三浦まりさんが地方における女性の政治参画の現状を、第2回は全国フェミニスト議員連盟設立者の三井マリ子さんが女性や若者の政治参画が活発なノルウェーの事例を紹介しました。第3回は元衆議院議員で福岡・女性議員を増やす会の藤田一枝理事が、実際の選挙に立候補をする際の心構えなどを説明しました。



参加者の質問に答える藤田理事（2023年12月）

講座後のアンケートでは8割の受講生が「（参加して）非常に良かった」「意識の変化があった」などと回答したそうです。主催の進める会事務局長の森本由美・北九州市議は「本格的な連続講座を開催するのは初めてのことなので、政治参画に興味を持つ人にアプローチすることに苦勞しましたが、このような取り組みを続けていくことが女性議員を増やす鍵になる」と話していました。

（北九州市議会 定数57、うち女性議員12人、21.1%）

議員のリアルな姿知ろう@福岡市



福岡市を中心に、住みよい男女共同参画のまちづくり進めようと活動する「NPO法人ジェンダー平等福岡市民の会」が24年1月13日、「ジェンダー平等実現のために 福岡女性市議14人に聞く」を開き、80人が参加しました。福岡市議会の女性議員14人中8人が登壇し（写真左）、4人が文書回答しました。「女性議員を増やすために必要なこと」として

「確固たる信念を持ち、多くの仲間をつくること」「議会の男女間格差を是正するクオータ制など制度の導入」「意識改革や教育・人材育成」などの意見が出されました。また、昼夜問わず求められる議員の

仕事と自身の生活との葛藤が語られ、女性議員を増やすにはワーク・ライフ・バランスの確保など環境整備の重要性も指摘されました。

開催した目的について富永桂子理事長は「現在の女性議員数14人は過去最多とはいえ、議会ではまだ少数派です」と指摘した上で、「女性議員を増やしていくには、女性が立候補するにあたっての障壁や、またそれを乗り越えた経験などを女性議員に聞き、立候補のハードルを低くすることで、さらに多くの女性の政治家へのチャレンジを呼び込みたい」と語りました。

(福岡市議会 定数62、うち女性議員14人、22.6%)

女性も若者も政治参画を@福岡県飯塚市

「女性・若者の政治参画」をテーマに講演会とリレートークが23年12月2日、飯塚市で開かれました。男女共同参画を目指して飯塚市などが主催したもので、約200人が参加。講演会では、若者の政治参画意識を高める活動などに取り組む「NO YOUTH NO JAPAN」のシンクタンクチームリーダー足立あゆみさんが、30歳以下の意識傾向を5つのグループに分けて分析し、それぞれに必要な施策を提案した「U30世代の政治意識調査」の結果などを紹介しました。リレートークでは、パリエウエーブ編集長の山川美幸がファシリテーターとなり、飯塚市議の藤堂彰さん、篠栗町議の崎山佐穂さん、個人で政治家と対話してきた近畿大学2年の諫山太郎さんが登壇。政治に興味を持ったきっかけや、立候補の決意、自身の経験も踏まえた政治参画の大切さについて語りました。

飯塚市では毎年、男女共同参画社会の実現をめざし「サンクスフォーラム」を開催しています。17回目になる今回は、20～30代の女性や若者の参加者を増やしたいと企画したそうです。

(飯塚市議会 定数28<欠員1>、うち女性議員2人、7.1%)

女性市議とおしゃべりカフェ@福岡県筑後市

政治参画について身近に語れる機会も、女性議員を増やすためには不可欠です。24年4月20日、筑後市議会の女性議員3人が超党派で「女性市議と一緒にしゃべりカフェ」を初めて開きました。「暮らしの困り事を通して政治を身近に感じてもらう」と企画。参加者の一人は「選挙で応援をしたけど、当選後どのような活動をしているのか気になっていた。次は友人を連れて参加したい」と話していました。参加者は10人と小規模でしたが「政治に関心を持つ女性を増やすために続けていきたい」(川口樹里市議)と語っていました。

(筑後市議会 定数17、うち女性議員3人、17.6%)



おしゃべりカフェで説明する川口市議

社会を変える女性リーダー育成@福岡県男女共同参画センター「あすばる」

全国で若手女性のリーダー養成を行っている一般社団法人パリエアカデミーが、24年3月10日、あすばると共催でパネルディスカッション「なれもっと女性リーダーが必要か～女性議員が語る地域の未来～」を開催し、約130人が参加しました。パネリストに福岡県議の後藤香織さん、飯塚市議の金子かよさん、佐賀県議の一ノ瀬裕子さんが登壇し、立候補のきっかけや議員活動について述べました。議員のやりがいとして一ノ瀬さんは、自身の議会での質問を機に県立の学校や公共施設の個室トイレに生理用品が備え付けられるようになった経緯を紹介。共同代表の三浦まり・上智大学法学部教授は、「女性が

議員になるということは、議会に“一石を投じる”ようなもの。波が生じ、議会が変わり、社会も変わっていく」と話しました。

この講演会は、パリテアカデミーが開催した1泊2日の「女性政治リーダートレーニング合宿」の一講座として開催されました。合宿には全国から22人が参加し、スピーチの方法や選挙戦術について学びました。



編集長's Eye

21年に改正された「候補者男女均等法」で、国・地方自治体の役割が強化されました。同法は選挙において男女の候補者数ができる限り均等になることを目指すもの。議会や選挙活動でのハラスメント対策が追加され、多くの自治体で防止条例の制定が進んでいます。また、女性の政治参画を促す施策を策定することが自治体の「責務」と明記されました。ただ、施策を講じる自治体は少なく、取り組みはまだまだ不十分だと感じます。2～4ページで紹介したような地道な活動を広げ、続けることが重要だと思います。昨春の統一地方選で起きた女性議員を増やそうという盛り上がりや、一時的なトレンドではなく、さらに大きなうねりにしていきましょう。

「出生率0.78の韓国から考える 少子化対策」

福岡・女性議員を増やす会が主催する「女性のための政治スクール」の講座で、韓国の少子化対策についてお茶の水女子大学教授の申琪榮さんが講演しました。



申さんによると、韓国政府は17年間で37兆円を投じ、有給育休の充実や子育て世代への減税支援などを導入しましたが、効果はありませんでした（韓国統計庁は24年2月28日、23年の合計特殊出生率が0.72になったと発表）。一方で、当事者である若者は仕事と家庭生活の両立支援を望んでおり、申さんは「政府の支援との間にギャップがあるのではないか」と指摘しました。

(2023年10月14日)

トピック

福岡県議会に親子傍聴席ができました

子連れで議会傍聴ができるように、県議会に親子傍聴室ができました。部屋には大きめのソファや授乳スペースがあり、遮音性の高いガラス窓から議場が見渡せます。先着2組まで利用可能で、事前予約もできます。2023年12月定例議会で早速、使用する人がいたそうです。

(2023年12月)



秋枝蕭子さん(104歳)逝去



福岡女子大名誉教授で女子教育史研究の草分けなどとして、女性の地位向上に長年尽力した秋枝蕭子さんが2024年4月26日、逝去されました。104歳でした。秋枝さんは女性議員が少ないことを懸念され、「福岡・女性議員を増やす会」の活動にも心を寄せていただきました。29日、福岡市で執り行われた告別式には「初めて立候補した時に秋枝先生から励まされた」などと話す女性議員が多く参列していました。

選挙・政治活動のハラスメント根絶を

福岡県議会が市町村議向けハラスメント研修会

福岡県議会は2023年11月13日、県内の市町村議会議員を対象にハラスメントに関する研修会を開催。県内60市町村のうち54市町村から、議員定数の3割を超える340人が参加しました。研修会は福岡県が全国に先駆けて22年に制定した「議会関係ハラスメントを根絶するための条例」に基づき開かれたものです。女性議員や候補予定者を支援する「Stand by Women」代表の浜田真里さんと、元全国都道府県議会議長会事務局次長の内田一夫さんが講演しました。



ハラスメント研修に集まった市町村議会議員
(県議会事務局提供)

女性議員対象の研修会も

24年1月30日に福岡県内の超党派女性県・市町村議会議員でつくる「福岡県女性議員ネットワーク」(会長・石田まなみ福津市議会議員、会員93人)でも、ハラスメント研修を開きました。ここでも講師をつとめた浜田真里さんは「女性は選挙区内に同級生や親族がいることが少なくネットワークを構築することが難しいため、SNSなどを通じて支援者を募ることが多く、どうしても被害に遭う機会が多くなる。(予防のため)チームや仲間などの第三者を介入させる必要性がある」と言います。

【福岡県議会のハラスメント被害調査】

福岡県議会は、2023年4月統一地方選に立候補した県内30市町の653人(回答者347人)にアンケートを実施。その結果、回答者の4人に1人が被害に遭い、特に女性候補者は男性候補者の2.6倍となっていたことが分かった。



研修会で講演をする浜田さん

参加者から「市でハラスメント条例を作ろうとしてもなかなか進まない」と質問があり、浜田さんは「なにか問題が起こってから当団体へ相談がきたり、急いで条例を作ったりということが多々あります。起こってしまったことに対応するのは非常に難しいので、リスク管理としてあらかじめ条例を作っておくことは重要です」とアドバイスしました。

福岡県内で2024年後半～25年に予定される地方議会議員選挙

右表のように、24年後半から25年に9市町村で議員選挙が実施される予定です。昨年4月の統一地方選挙で女性候補者も当選者も過去最多となりました。それ以降に行われた飯塚市議補欠選挙（改選数1、23年11月）で女性が当選し、15年以降、女性議員が1人でしたが2人になりました。豊前市議選（24年3月）でも女性議員が2人から3人（定数13）に増えています。

25年には女性議員がゼロの赤村と久山町でも選挙が行われます。女性議員を増やすにはどうすればいいのか、自分には何ができるのか、それぞれの地域で考える材料にしてください。

任期満了年月	市町村	定数	女性議員数	割合	
2024 (令和6)	10月	宗像市	20	3	15.0%
	2月	北九州市	57	12	21.1%
2025 (令和7)	3月	那珂川市	17	4	23.5%
		香春町	13	1	7.7%
	4月	粕屋町	16	2	12.5%
	7月	中間市	16	3	18.8%
		赤村	10	0	0.0%
	9月	久山町	10	0	0.0%
	12月	太宰府市	18	4	22.2%

※欠員による補欠選挙や議会解散などで突然、選挙が行われることもあります。